

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
京都福祉専門学校	平成8年1月11日	丸岡 晃嗣	〒611-0042 京都府宇治市小倉町春日森25番地 (電話) 0774-21-7088			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 南京都学園	昭和50年3月31日	理事長 本部 広樹	〒619-0245 京都府相楽郡精華町下狛中垣内48番地 (電話) 0774-98-0520			
目 的	介護福祉士の養成					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会 福祉分野	教育・社会 福祉専門 課程	介護福祉科	2年 (昼)	1962 単位時間 (又は単位)	平成6年 文部省告示第84号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	860 単位時間 (又は単位)	802 単位時間 (又は単位)	— 単位時間 (又は単位)	450 単位時間 (又は単位)	— 単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人	61 人	4 人	21 人	25 人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 定期試験の成績、出席及び学習状況により総合的に評価する	
長期休み	■学年始め：4月1日～4月6日 ■夏 季：7月29日～9月30日 ■冬 季：12月23日～1月4日 ■学 年 末：3月15日～3月31日			卒業・進級条件	本校所定の科目を各学年800時間以上、卒業までに1,962時間以上修得すること	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 電話連絡・家庭訪問等			課外活動	■課外活動の種類 ↳資格用ボランティア ■サークル活動 (有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 福祉施設 ■就職率※1 100 % ■卒業者に占める就職者の割合※2 100 % ■その他 (任意) (平成27年度卒業者に関する平成28年4月時点の情報)			主な資格・検定	介護福祉士 レクリエーションインストラクター 福祉住環境コーディネーター ガイドヘルパー	

中途退学の現状	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 3.2%</p> <p>平成28年3月31日在学者 61名（平成28年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 学生の出席状況のチェックを頻繁に行い早期面談等を行う</p>
ホームページ	URL: <a href="http://kyoto-fukushi.mkg.ac.jp">http://kyoto-fukushi.mkg.ac.jp</a>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

介護福祉士資格を取得するためのカリキュラムの一つとしての実習ではあるが、ただ単に学校外での実習を規定時間行うだけでは留まらず、介護福祉士としての生き方を将来的に考えさせる実習指導を目指す。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
丸 岡 晃 嗣	京都福祉専門学校
上 田 千 稔	宇治さわらび園
満 若 好 美	京都府視覚障害者協会
塩 見 浩 二	京都廣学館高等学校
大 塚 浩 也	京都動物専門学校
平 尾 克 英	京都福祉専門学校
藤 田 佳 子	京都福祉専門学校
高 畑 みゆき	京都福祉専門学校

### (開催日時)

H28 第1回 平成28年 9月15日 15:00～16:30

H28 第2回 平成29年 3月23日 15:00～16:30 (予定)

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
介護実習Ⅰ (区分Ⅰ)	地域における在宅介護（訪問介護、ショートステイ、通所介護 等）の多様な介護サービスの理解を深め、事業所の目的・機能について学ぶ。また、高齢者とのコミュニケーション技術や生活援助技術を習得することを目的として、介護実習担当者の指導の下、実習を行う。	宇治さわらび園・同和園 ヴィラ向島・みやびのその あじさいガーデン・そせい苑 木津芳梅園・神の園 第二京しみず・健康園ももやま (他44施設)
介護実習Ⅱ (区分Ⅱ-①)	入所施設での生活の場を意識し、障害レベルに応じて介護の技術的適応の評価と適正な技術の用い方を理解し、個別援助のあり方について学ぶ。又、医療・看護との関連の中で独自の判断で行ってはいならない仕事と職種間連携について具体的に理解できるよう実習担当者的下、実習を行う。	嵐山寮・山科苑日ノ岡デイサービス 健康園あらしやま・桃寿苑 心身障害者福祉センター・萌木の村 原谷こぶしの里・ぐんぐんハウス 西陣憩いの郷・山城ぬくもりの里 (他44施設)
介護実習Ⅱ (区分Ⅱ-②)	施設運営のプログラムに参加し、介護サービス全般について理解し、同時に個別指導援助計画・記録の方法など介護に必要な一連の介護過程を学ぶ。また、チームの一員として介護を遂行することを学び、その活動を通して、利用者とともに学生自身も人間的な成長を目指し、介護観を養うことを目的とする。	天瀬苑・長楽園・ヴィハーラ十条 おおやけの里・淀の里・ゆいの里 山科苑・四條畷荘・いでりの里 旭が丘ホーム (他44施設)

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

学内における随時の研修（勉強会・実習打合せ等）だけでなく、日本介護福祉士養成施設協会や全国専修学校各種学校協会等が主催する研修会にも参加することにより、教員の資質の維持・向上を図る。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
丸 岡 晃 嗣	京都福祉専門学校
上 田 千 稔	宇治さわらび園
満 若 好 美	京都府視覚障害者協会
塩 見 浩 二	京都廣学館高等学校
大 塚 浩 也	京都動物専門学校
平 尾 克 英	京都福祉専門学校
藤 田 佳 子	京都福祉専門学校
高 畑 みゆき	京都福祉専門学校

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: [http://kyoto-fukushi.mkg.ac.jp/cp\\_topics/6135/](http://kyoto-fukushi.mkg.ac.jp/cp_topics/6135/)

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

<http://kyoto-fukushi.mkg.ac.jp/about/publicinfo/>

授業科目等の概要

教育・社会福祉専門課程 介護福祉科 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人間の尊厳と自立	介護を必要とする者に対する全人的理解を深めるための「人間」の持つ「尊厳」と「自立」について学ぶ。それらを理解する上で「人権」や「価値観」、「人間関係」などの多角的見地から理解を深める。	1前	30	2	○		
○			人間関係とコミュニケーション	介護福祉活動において、対人援助技術は欠かせない。そのためのコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、それと同時にチームケアを進める上で大切な他職種やチームスタッフ同士のコミュニケーション技術を学ぶ。	1前	30	2	○		
○			社会の理解	人間は社会とのかかわりの中で今を生活している。ひとりの人間が社会とどのように関わり、その関わりの中からどういった影響を受けているのかを学ぶ。また、社会保障に護られ人間は生活を営んでいる。その制度がどのような変遷を経て生まれてきたものか、またそれらの制度の本質と性質を学び、理解を深める。	2通	60	4	○		
	○		環境社会学	人間は幸福であるべき存在である。幸福とは何かを考えるためブータンという仏教王国の民族性・生活様式を学ぶことで今我が国での「幸福のカタチ」を考える。	2後	30	2	○		
	○		心理学	老化や障がいがある人にとってどんな心理的影響を及ぼすのかを理解し、それを基にどういった対応が望まれるのかを学ぶ。	1前	30	2	○		
	○		社会福祉施設経営学	福祉施設がどのような社会的役割を果たしているのかを理解し、福祉施設が社会の中で根付いていくためには、そこで働く人間・施設機能など様々な観点から経営とは何かを理解する。	2後	30	2	○		
	○		京の文化	京都の文化をとらえて日本文化を知り、対人援助職者として福祉現場で福祉サービスを受ける人々の心を知る手がかりをつかむ。	2前	30	2	○		
	○		レクリエーションⅠ	人間の生活には、衣食住をはじめとする基本的な生活・役割をはじめとする社会的な生活・自分自身が自由にアレンジする余暇的生活に分割される。この科目では、余暇生活が人間にとってどのようなものであるかを学ぶ。福祉活動におけるレクリエーションとは単に遊びではなく、あくまでもその人にとって意味のあるものでなければならない。レクリエーションが人間生活にとってどんな意味をもつのかという理解を基に、この科目では、レクリエーションを展開する上で必要な計画の立て方と実践について学ぶ。	1通	60	2		○	
	○		レクリエーションⅢ	レクリエーションⅠ・Ⅱを受けて、人間にとってレクリエーションのもつ役割について更に理解を深めると同時にレクリエーション計画・実践・評価することの意味について理解する。レクリエーション・インストラクター取得を目指す。	2前	30	2	○		

	○	体育	体を動かす体育を通して組織体のあり方、対人関係のあり方、人材育成のあり方を学ぶ。	2 前	30	1		○	
	○	芸能一般	詩吟・扇舞等をとおして対人援助職者としての洗練された人間性と精神を養う。	2 前	30	1		○	
	○	介護の基本Ⅰ	専門職者として介護福祉士をとりまく状況を知り、その役割を理解した上で介護の概念と倫理観を養う。	1 前	60	4	○		
	○	介護の基本Ⅱ	介護を必要とする者の生活スタイルは様々である。そのことを踏まえた上で、個別性のある介護を展開するための介護過程とは何かを学ぶ。また、介護福祉活動に要求される各職種間の連携とリスクマネジメント能力の必要性について学ぶ。	1 後	60	4	○		
	○	介護の基本Ⅲ	介護を必要とする人の生活を理解し、生活支援の意義と方法を理解する。介護福祉専門職の専門的業務を理解することで介護福祉士の専門性・固有性を明らかにする。要介護者に寄り添うこと、関わること、向き合うことに謙虚に、知識と技術、価値観に裏付けられた専門性をもって取り組んでいくことを理解する。	2 通	60	4	○		
	○	コミュニケーション技術A	介護福祉活動にコミュニケーション技術は不可欠である。コミュニケーションがどういう位置づけにあるのかを理解した上で実践できる能力を養う。	1 前	30	1		○	
	○	コミュニケーション技術B	コミュニケーションAで理解した基本を基に本科目では、その応用としてあらゆる場面でのコミュニケーションのあり方を考える力を養う。また、コミュニケーションとは単に相互のやりとりで止まらず、正確な記録から利用者の状態を掴みコミュニケーションを円滑かつ発展させることが必要となってくる。そのための記録の意義について学ぶ。	1 後	30	1		○	
	○	生活支援技術A	人間の居住環境に目を向け快適に過ごしてもらうための環境整備についての意義と具体的な方法について学ぶ。さらに自立支援に向けた移動介助と食事介助のあり方について学ぶ。	1 前	60	2		○	
	○	生活支援技術B	人間にとって清潔保持と排泄のメカニズムを知った上で、自立支援に向けた援助の方法について学ぶ。	1 通	60	2		○	
	○	生活支援技術C	ICFの視点に基づいて、生活全般を支える介護の技術を習得する。その人がその人らしく生活するための衛生管理と楽しみとなることを目指した身じたくのプロセスと方法を学ぶ。在宅介護における「訪問介護サービス」の意義を理解し ICFの視点に基づいて、介護福祉士として習得しておく必要の或さまざまな「家事」の援助技術を提供していく上での基本行動の理解と知識について学ぶ。	2 通	60	2		○	
	○	生活支援技術D	ICFの視点に基づいて、介護福祉士として習得しておく必要の或さまざまな「家事」の援助技術を提供していく上での基本行動の理解と知識について学ぶ。また、自立に向けた居住環境の整備を学び、対象となる人の生活上のニーズの把握から進め、具体化していく方法を習得する。ICFの視点に基づいて、介護福祉士として習得しておく必要の或さまざまな「家事」の援助技術を提供していく上での基本行動の理解と知識について学ぶ。ICFの構成要素に基づいたアセスメントを行い、生活の中で「調理」がもたらす意義と目的について理解し、支援の方法を習得する。	2 後	60	2		○	
	○	生活支援技術E	個々の利用者特有の終末期の状況をアセスメントし、「看取り」実践への応用力を身につける。	2 後	60	2		○	

○		介護過程Ⅰ	ケアを支えるものとして「介護過程」は重要な位置づけにある。本科目では、介護過程がどのような機能を果たすのかという基本的理解を深める。	1 前	30	1		○	
○		介護過程Ⅱ	介護過程を展開する上でICF理論は大切な視点となる。ICF理論に基づいたアセスメントの方法とケアカンファレンスでの共有の大切さについて学ぶ。	1 後	30	1		○	
○		介護過程Ⅲ	介護過程Ⅰ・Ⅱを受けて、ICFの視点を念頭においた個別的ケアプランのための計画を立案し、更にはその実施・評価・再アセスメントの意味と流れについて理解する。	2 通	60	2		○	
○		介護過程Ⅳ	区分Ⅰ、Ⅱ-①、Ⅱ-②の3回の介護実習をとおして「ケアの本質」が理解でき、ケーススタディ(文献学習)をとおして自分自身が行ったケアを見直し、更には「自分自身の介護観」や介護福祉士としての「倫理観」を確立する。	2 後	30	1		○	
○		介護総合演習Ⅰ	介護実習は専門職として大変重要な位置づけにある。授業で学んだ基本的知識を再確認すると同時に介護実践をするために必要な知識を主に見学実習から学ぶ。訪問介護が社会資源としてどのような役割を果たすのかを理解する。	1 後	60	2		○	
○		介護総合演習Ⅱ	介護総合演習Ⅰを受けて、区分Ⅱ-①実習を見直し、区分Ⅱ-②実習に向けてのケアプラン用紙の書き方を当校の様式にどのように落とすかを理解する。また、実施・評価の記載方法について理解する。	2 後	60	2		○	
○		介護実習Ⅰ	地域における在宅介護(訪問介護、ショートステイ、通所介護等)の多様な介護サービスの理解を深め、事業所の目的・機能について学ぶ。また、高齢者とのコミュニケーション技術や生活支援技術を習得することを目的として、介護実習担当者の指導の下、実習を行う。	1 前	90				○
○		介護実習Ⅱ	①入所施設での生活の場を意識し、障害レベルに応じて介護の技術的適応の評価と適正な技術の用い方を理解し、個別援助のあり方について学ぶ。又、医療・看護との関連の中で独自の判断で行ってはいならない仕事と職種間連携について具体的に理解できるよう実習担当の下、実習を行う。 ②施設運営のプログラムに参加し、介護サービス全般について理解し、同時に個別指導援助計画・記録の方法など介護に必要な一連の介護過程を学ぶ。また、チームの一員として介護を遂行することを学び、その活動を通して、利用者とともに学生自身も人間的な成長を目指し、介護観を養うことを目的とする。	1 後 2 通	360	15			○
○		発達と老化の理解Ⅰ	人間は一生成長する存在である。そのプロセスにおいて心身共に個性のある一個人となる。老年期における発達課題を踏まえ老年期の身体的特徴および心理的特徴について学ぶ。	1 前	30	2		○	
○		発達と老化の理解Ⅱ	老年期の特徴を踏まえ、それが日常生活に及ぼす影響を知る。介護福祉士として生活援助の特殊性を学ぶ。同時に予防的視点を養う。	1 後	30	2		○	
○		認知症の理解Ⅰ	認知症が疾患であることを理解した上で認知症の基礎的知識を学ぶ。また心理的特徴を理解し、認知症の理解を深める。	1 後	30	2		○	
○		認知症の理解Ⅱ	認知症の理解Ⅰで学んだ認知症の基本的理解に立ち、具体的事例をとおし対応について考え、更に認知症者を取り巻く家族や地域とのかかわりについて理解を深める。また、認知症の人に対する尊厳と具体的なコミュニケーション方法を学ぶ。	2 前	30	2		○	

○			障害の理解A	感覚器(眼)障がいについて病的に理解し、その障がいによって生活がどのように影響するのを知る。また、感覚器障がい者とのコミュニケーション技術について学ぶ。聴覚障がい者は、視覚障がい者同様、情報が得られずコミュニケーション障がいを引き起こす。しかし、人間にとって情報を頼りに生活している以上、介護福祉活動で手話をマスターしておくことは大切なこととなる。	1 通	60	4	○		
○			障害の理解B	障がい者の病的理解をした上で、その生活にどのように支障を来しているかを学ぶ。また障がいの受容過程を知り、その時点での関わり方について理解を深める。	1 後	30	2	○		
○			障害の理解C	難病をはじめ、精神障がい者・知的障がい者・発達障がい者の理解をした上でそれらの障がいが日常生活の中でどう影響を及ぼすかを学ぶ。また、社会とのかわりについて学びを深める。さらに障がい者の介護と生活支援についても理解を深める。	2 前	30	2	○		
○			こころとからだのしくみ I	介護過程を展開するために、障がいの程度とリハビリテーション内容を知ることは大切になってくる。この科目では、利用者の自立支援及び社会生活能力拡大のためのリハビリテーションのあり方を学ぶ。	1 前	30	2	○		
○			こころとからだのしくみ II	介護する上で人間の身体的・精神的なしくみの原則を理解することは大変重要なことである。また、身体のしくみと精神のしくみがどのように相互作用を合っているのを知ることで人間を総合的に観ることができる。この科目では、人間の心理構造のしくみについて科学的に学ぶ。	1 後	30	2	○		
○			こころとからだのしくみ III	こころとからだのしくみ I・IIを受けて、Ⅲ―①に於いては身体機能という角度から人間生活の営みを理解し、介護技術に結びつけていく力を養う。こころとからだのしくみ I・IIを受けて、Ⅲ―②に於いては身体機能という角度から人間生活の営みを理解し、介護技術に結びつけていく力を養う。また、人間の最期をどう看取るかを理解する。	2 通	60	4	○		
○			医療的ケア I	人の命を尊厳するという倫理観とチームケアの大切さを学ぶ。また喀痰吸引を必要としている人に対するリスクマネジメントと感染予防の必要性を理解する。さらに喀痰吸引処置をするに当たって呼吸器系の仕組みやはたらきについても勉強し、観察眼を養い、異常の兆候が察知できるようになる。	1 前	30		○		
○			医療的ケア II	消化器系のしくみと働き、経管栄養について知識を深め理解する。また、感染予防、リスクマネジメントの必要性をより深く理解する。	1 後	20		○		
○			医療的ケア III	演習により、経管栄養の技術を正確に安全に行うことができる。喀たん吸引・経管栄養の実技各項目が5回以上クリアできる。	2 通	52		○		
合計				42 科目	2,112 単位時間(単位)					